

平成 25 年度 長崎国際大学 卒業証書 修了証書・学位記授与式 学長式辞

“白梅の はちきれそうな 蕾かな”の句にありますように、庭先の至る所に白梅、紅梅、梅の馥郁たる香りが早春を感じさせます本日、第 11 回の卒業式を挙行いたしましたところ、ご多忙な中、多数のご来賓の皆さまのご臨席を賜り、ありがとうございます。また、ご家族の皆さまにも心よりお喜び申し上げます。

今回の 313 名の卒業生、この中には 56 名のアジアからの留学生と、9 名の大学院生が含まれています。殊に留学生の皆さんは母国を離れ、昨今の難しい国際情勢の中で一生懸命に勉学に励まれました。まずもって、その努力に心より敬意を表します。

さて、旅立ちを迎えた皆さん、これから皆さんが歩もうとする社会はどのようなものでありましょうか。この日本は、少子高齢化、人口の減少は進み、経済成長はまだまだ停滞しています。天然資源や食糧を外国に依存し、我われ日本人は、自分を表現するコミュニケーション能力が不足しているとまで評されています。このような状況は、私たちにとってすべてマイナスのことばかりでしょうか。私たちはいかなる状況にあっても、視点を転換し前向きに捉えるべきではないでしょうか。

高齢化は、熟練した知識の豊富な人々が増えることであり、知恵が深まります。少子化・人口減少は、家も会社もレストランも病院も、スペースが生まれ、ゆとりを持った生活ができることともいえましょう。経済成長の停滞は、競争や成果主義が薄れ、仕事に追い回されない余裕ある日々が訪れます。対外依存率が高いことは、世界各国に目を向け、気を配り、他国との絆を大切にする姿勢にも繋がっていきます。日本の若者の自己主張の弱さも他面、人のことを思いやる、一步下がった謙虚の精神でもありましょう。常に前を向き、物事を肯定的に捉える生き方は大切なことだと思います。

現代社会はグローバル化を推進し、国を越えた世界観を求めいています。経済成長を旗印に競争による成果を求め、日本経済は、日銀の黒田総裁や安部首相の主導で明るさを見せてきました。経済の豊かさは、「モノ」「カネ」への重要性を追求することです。確かにグローバル化、競争による成果主義、「モノ」「カネ」の重要性は、ある面では的を射ています。しかし、考えてみれば、競争社会は企業の効率化と利益優先を求めるあまり、付き合いの深い下請企業との関係を断ち切り、海外の安い部品や資材を調達することにより中小企業が培ってきた技術はなくなっていく。モノづくり日本の崩壊を招きます。労働も同じく、賃金の切り下げの為に身分の不安定な非正規労働者ばかりに依存すると、生産、営業の技術や方法は蓄積されず、品質保証もままなりません。

経済活動において、国家が主張し過ぎると経済の主役である企業の自律的回復力がなくなり、経済活動の基礎体力が低下していきます。さらに、「モノ」や「カネ」を唯一の価値観とすると、このシワ寄せがどんどん「ヒト」のベクトルに襲い掛かります。ホームレス、ワーキングプア、ネットカフェ難民の問題がはっきりとこのことを物語っています。「カネ」の有効性はあくまで「ヒト」に分配してこそ生きてきます。それにより社会は豊かに生き生きとなってくるのです。

かつて江戸時代、私たちの生活は地域が基盤になっていました。地域の連携が日本全体、更には世界へと広がりました。だからこそ今一度、地域の力、地域の絆に思いを馳せる時代になってきたのです。地域で生まれた大学、地域で育った皆さん、そしてここで過ごした青春の日々。21世紀の世界、日本のリード役は、みなさんが過ごし活躍する地域なのです。地域ぐるみで暮らしを守り、経済力をつけていく。地元で生産をし、消費される地産地消の食料品、再生可能エネルギーで自給率を高めるのです。何よりも人が見え、人との関わりで元気を出していくのです。まさに地域で働くことが誇りであることがこれからのブランドにもなっていきましょう。

大学の学びの中で正解が一つだけでないということに気づき、正解がないものもあることを知りました。正解のない多様性の社会から問題解決能力をも導き出さねばならないのです。これから先、辛いこと、苦しいことも多いと思いますが、それを越える夢や希望、何よりも素晴らしい未来が待っています。皆さん方の幸福と充実した人生を祈り、お別れの言葉といたします。

平成 26 年 3 月 8 日

長崎国際大学

学長 安部 直樹